

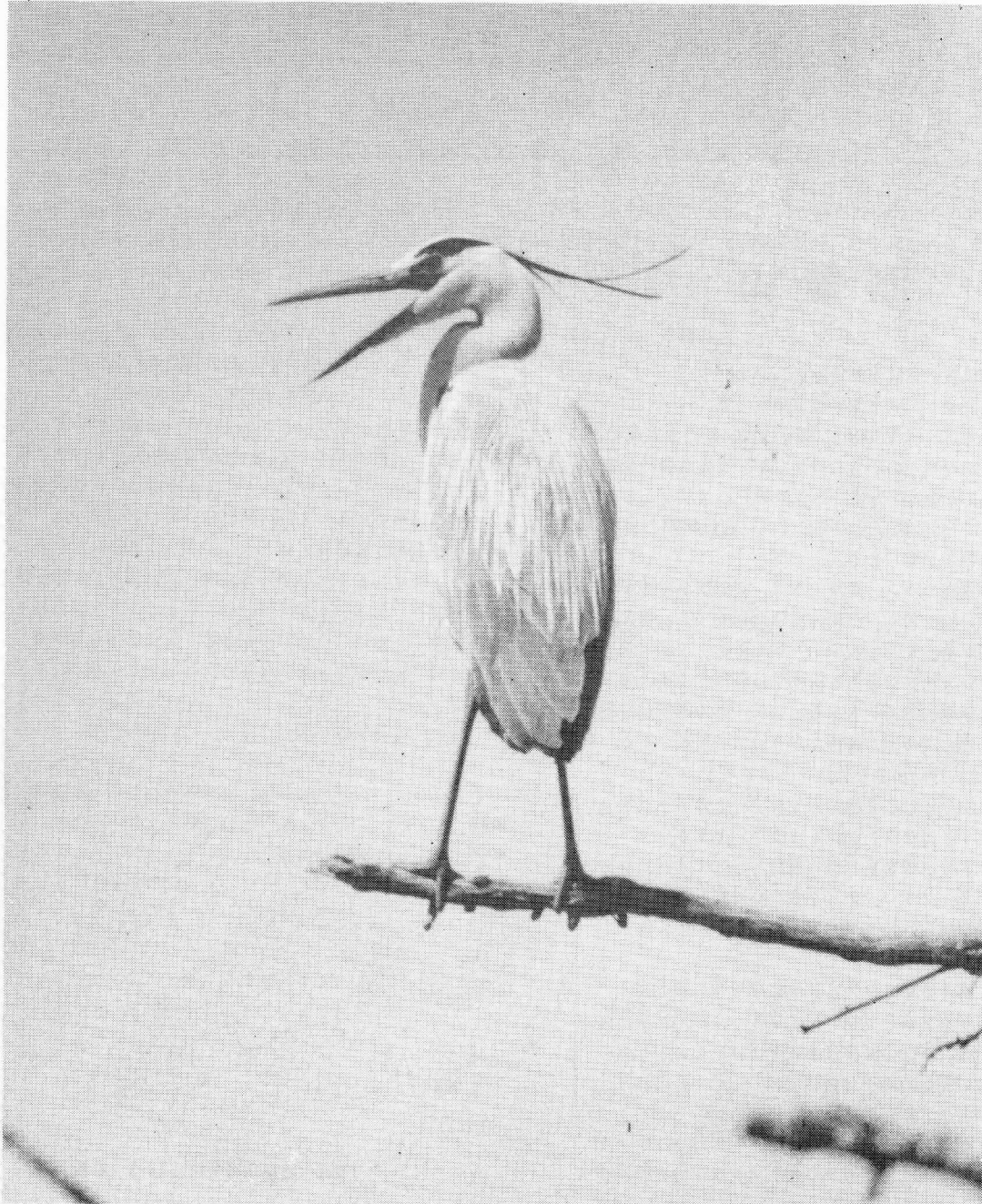
野鳥たより

—北海道—

第55号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 昭和59年3月21日



アオサギ 野幌サギの森 1983.4.速水藤二郎



も く じ

探鳥地案内 (測量山)	2
大樹町の鳥	飯嶋良朗... 3
新年懇談会報告	8
マガモの交尾行動	小山政弘... 9
探鳥会報告	野幌・ウトナイ湖・小樽海岸... 9
探鳥会案内	11
鳥民だより・編集後記	12

測 量 山

探鳥地案内

(24)

- ◆位置 室蘭市測量山
- ◆交通 国鉄室蘭本線室蘭駅下車
- ◆概況 標高200mの測量山は、鉄の街室蘭の市内に残された唯一の小さな自然だが、三方を海に囲まれ、渡り鳥の中継地として、四季を通じ、メジロからオジロワシまで130種類以上の野鳥と共に断崖絶壁の連なる海岸線の景観が楽しめる。
- ◆探鳥コース 測量山へは、室蘭駅から徒歩30分、車で10分程で着く。山頂の展望台に立つと、噴火湾を挟んで駒ヶ岳、北西に有珠山、昭和南山、羊蹄山が一望できる。野外ステージのある唐松平は探鳥会の集場所でもあり、水飲場、トイレもある。ステージの裏側が駐車場で、その奥に遊歩道が縦横に走りマスイチ浜に至る。この辺り1周約2kmが主な探鳥コースである。

山全体は広葉樹の原生林で、アカゲラ、ヤマゲラ、コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ハシブトガラ等留鳥の他、夏鳥としてアオジ、ウグイス、メジロ、キビタキ、コルリ、クロツグミ等が見られ、エゾセンニュウの声が夜の住宅地まで流れてくる。

林を抜けてマスイチ浜に出ると、頭上高くアマツバメがとび交い、イワネバメが足元をかすめる。正面の断崖はオオセグロカモメのコロニーで繁殖の様子が観察でき、近くの岩場にはイソヒヨドリが時折り顔を見せる。

海上に目を移すと、5月下旬にはハシボソミズナギドリ、アカエリヒレアシシギの大群が訪

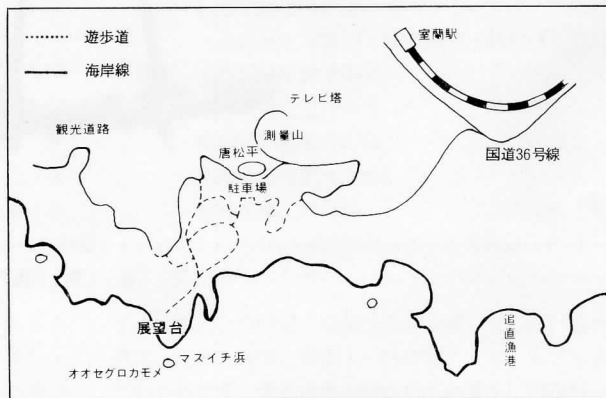
れる。

秋の測量山は、スキの穂に群れるホオジロ、ヒヨドリの群を襲うハヤブサ、そしてタカの渡り等見ごたえのある時季だ。トビ、ノスリが多いが、オオタカ、クマタカ、ハチクマが混じり、よく晴れた日には40羽程の群が上昇気流を求めて旋回する様子は見飽きることがない。

冬は、小数のオジロワシとオオワシが姿を見せるが、ほとんど若鳥である。海上では、カモ類が増え、コオリガモ、シノリガモ、ウミアイサ、ズマガモ、ヒメウ等が港の内外でよく見られる。

◆上記以外に見られる鳥

ツツドリ オオアカゲラ セグロセキレイ ビンズイ
コマドリ ルリビタキ ノゴマ マミジロ オオルリ
クロジ オオハム ホオジロガモ コチドリ オオジシギ
ウミスズメ ケイマフリ ビロードキンクロ ツミ
ハイタカ



〒051 室蘭市舟見町1-13-3 本多 進

大樹町の鳥

飯嶋 良朗

十勝南部の大樹町に生息する鳥類を紹介する。大樹町の自然環境は、山岳、森林、草原、湿原、河川、湖沼、海浜と変化に富み、これまでに観察された鳥種は212で、本誌において紹介されてきた他の地区と比して多い。表-1に、観察種とその内容を示した。○印は観察の極めて稀なもの。繁殖のらんの十は繁殖しているもの、(十)は繁殖の可能性が大であるものを示す。

この記録は、主として1973年4月から1983年10月までのものである。観察場所は日高山麓部から沿岸部にかけてであって、高山部の調査はしていない。

表-2に月別観察種数を示した。5月と9月にピークがある。いずれも沿岸、河口部において旅鳥の観察種数が増えるためである。大樹町には海浜はあるが干潟がない。従って、観察される涉禽類は表-1のとおりであるが、観察個体数は少ない。表-1に記載されたガンカモ科27種のうち、5月に観察されたものは21種、9月に観察されたもの16種である。また、チドリ科、シギ科、ヒレアシギ科のものは計28種記載されているが、そのうち5月に観察されたもの17種、9月に観察されたもの21種となっている。ガンカモ、チドリ、シギ、ヒレアシギ科全体をみても、計55種中、5月に観察されたもの38種、9月は37種と、ほぼ同じ比率になっている。従って、5月のピークの方が高いのは、夏鳥の観察が増えていることによる。

いくつかの種について、少し説明を加える。 図-1 観察地域図

1 オオタカ

亜種であるシロオオタカの若鳥が1羽、1981年2月、飛来した。日本では2回目の記録である。大樹町は迷鳥の観察例が比較的多く、このほかに、サカツラガン、アメリカヒドリ、シロハヤブサ、コチョウゲンボウ、クロヅル、ナベヅル、カナダヅル、カラフトアオアシシギ、コホオアカ、コクマルガラスの記録がある。また、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ミサゴ、クマタカ、タゲリ、ヘラシギ、ツバメチドリ、ワシミミズク、シマフクロウ、ヒレンジャク、ジョウビタキ、エゾビタキ、ヤマガラ、ユキホオジロ、ワタリガラスが極めて稀であり、特殊な鳥類と言える。

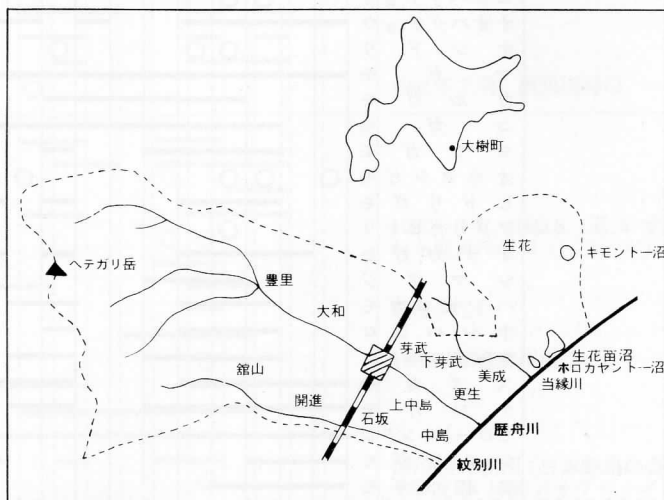
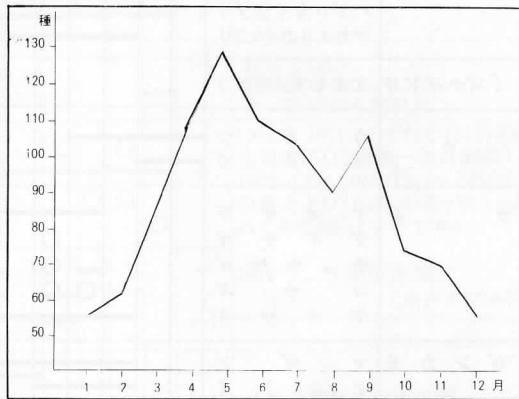
2 タンチョウ

毎年、3番が大樹町内で繁殖している。キモントー沼周辺の湿原(2番)と、当縁川河口周辺の湿原(1番)が繁殖地となっているが、このほかに、生花苗沼、ホロカヤントー沼周辺でも営巣が確認されたことがある。冬季は釧路方面へ移動するようである。

3 ツバメ

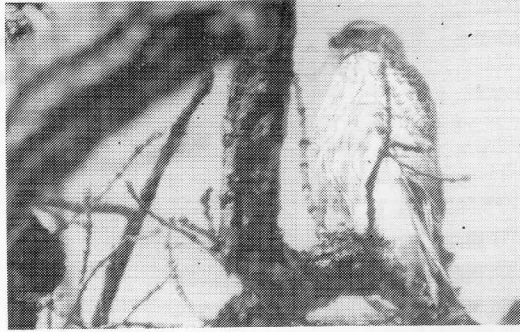
1972年、上中島地区で、繁殖が確認された。その後、石坂地区で、繁殖が再度確認された。1980年からは、毎年2~3番が繁殖している。巣は紋別川沿に作られる傾向がある。

表-2 月別観察種数



4 メボソムシクイ

北海道においては正体不明の鳥と言える。1977年9月24日、大樹市街近くにある私の診療所の窓ガラスに衝突して死んだムシクイがメボソムシクイ(コムシクイ)と同定された。1979年、本種と思われるムシクイが、診療所に近い大樹神社の林で、ツツドリの子1羽を育成した。1980年、同種と思われるムシクイが、同じ場所で6羽の子を育成した。私は、これをメボソムシクイと判断したので繁殖のらん(十)と記した。ただし、観察記録は死体拾得の時のもののみを記した。



シロオオタカ

大樹町の鳥

表-1

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	補
ア	アビ オオハム シロエリオオハム			—	—	—	—	—							オオハム、シロエリオオハムの識別は厳密ではない。数はあまり多くない
カイツブリ	カイツブリ ハジロカイツブリ アカエリカイツブリ			—	—	—	—	—						+	3月の観察例は極めて稀
ミズナギドリ	オオミズナギドリ									○					1978.生花苗沼(日本野鳥の会十勝支部 1980)
ウ	ウミウ ヒメウ	—	—	—	—	—	—	—							
サ	アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ			—	—	—	—	—							1953年以来、飛来数が増加している。9.10.11月の観察数は少ない 1981.1983歴舟川河口近辺(ダイサギ、チュウサギ)
ガンカモ	マガシクイ サカツラガン コブハクチョウ オオハクチョウ オシドリ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ シマアジ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ クロガモ ビロードキンクロ シノリガモ コオリガモ			—	—	—	—	—							1981.4.8-5.5生花苗沼(平沼裕氏より) 1981.歴舟川河口とキモント沼で観察、多分同一個体、野性のもではない(コブハク) 8月の観察は極めて稀(オオハクチョウ) 数は少ない 1979.4.30 生花苗沼(日本野鳥の会十勝支部 1980) 観察回数は多いが、個体数は少ない 数は少ない

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	補
ガンカモ	ホオジロガモ ミコアイサ ウミアイサ カワアイサ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+	
ワシタカ	ミサゴ トビ オジロワシ オオワシ オオタカ ツタミ ハイタカ ノスリ クマタカ ハイロチュウ チュウ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	+	1979 1羽生花苗沼 数は少ないが定期的に飛来する 数は少ないが定期的に飛来する 1981. 2. 亜種のシロオオタカ 1羽飛来、日方地区 1970. 7 ペテガリ岳(日本野鳥の 会十勝支部 1980)大笹清氏の 観察もあり 数は少ない
ハヤブサ	シロハヤブサ ハヤブサ チゴハヤブサ コチョウゲンボウ チョウゲンボウ	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+	1980. 1羽飛来、歴舟川河口～ 市街 数は少ない 1979. 1羽飛来、豊里地区 数は少ない
ライチョウ	エゾライチョウ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+	
キジ	ウズラ キ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(+)	数は少ない 観察数が少ないので カゴ抜けかも知れぬ
ツル	クロツル タンチョウ ナベツル カナダツル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	○	+	1970.9, 1971.11 それぞれ1羽美成 生花地区(山田政一氏の観察) 1972-1974、10~11、1~2羽(山 田勇氏より)1981.4-5 1羽、いず れも中島地区(ナベツル)
クイナ	クイナ ババン オオバン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+	1979年、1羽生花地区 (カナダツル)
チドリ	コチドリ イカルチドリ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン タゲリ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+	2月の観察は極めて稀 1981年2羽、歴舟川河口
シギ	キョウジョシギ トウネンシギ ウズラシギ ハマシギ ヘラシギ キリアイシギ ツルシギ アカアシシギ アオアシシギ カラフトアオアシシギ タカブシギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ オグロシギ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+	1980.9.3羽、1983.8. 1羽、いず れも歴舟川河口(ヘラシギ) 数は少ない 1980. 1羽歴舟川河口 1979.生花苗沼(日本野鳥の会 十勝支部 1980)(オグロシギ)

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	補
シギ	オオソリハシギ				■	■	■							+	数は少ない 数は少ない
	チュウシャクシギ				■	■	■								
	ヤマシギ				■	■	■	■	■						
	タシギ				■	■	■	■	■	■					
	オオジシギ				■	■	■	■	■	■					
ヒレアシギ	アカエリ ヒレアシギ								■	■					
ツバメチドリ	ツバメチドリ				○									1978・生花苗沼（日本野鳥の会 十勝支部 1980）	
カモメ	ユリカモメ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		南接する広尾町では繁殖を確認 数は少ない
	セグロカモメ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	オオセグロカモメ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	シロカモメ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	カモメ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	ウミネコ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	アジサシ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
ウミスズメ	ハシブウミガラス												○		1978・死体拾得 1979・生花地区の海岸 1978・死体拾得
	エトロフウミスズメ	○													
	コウミスズメ		○												
ハト	キジバト			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	+	
	アオバト			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
ホトトギス	ジュウイチ				■	■	■	■	■	■	■	■	■	+	数は少ない
	カウ				■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	ツドリ				■	■	■	■	■	■	■	■	■		
フクロウ	ワシミズク												○	+	1974年11月(北海道教育委員会 1977) 数は少ない
	シマフクロウ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	トラフズク														
	コミズク														
	コノハズク														
	オオコノハズク			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	アオバズク			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
フクロウ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
ヨタカ	ヨタカ					■	■	■	■	■	■	■			
アマツバメ	ハリオアマツバメ													+	1970・ベテガリ岳（日本野鳥の 会十勝支部 1980）
	アマツバメ							○							
カワセミ	ヤマセミ													+	数は少ない 数は少ない 数は少ない
	アカショウビン														
	カワセミ														
キツキ	アリス													+	数は少ない
	ヤマゲラ														
	クマガラ														
	アカゲラ														
	オオアカゲラ														
	コアカゲラ														
	コゲラ														
ヒバリ	ヒバリ													沿岸部で少数越冬	
ツバメ	ショウドウツバメ													+	1972年繁殖初確認。道東・道 北では初めての記録
	ツバメ														
	イワツバメ														

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	補
セキレイ	キセキレイ													+	
	ハクセキレイ													+	
	セグロセキレイ													+	
	ビンズイリ タヒバリ													+	
ヒヨドリ	ヒヨドリ												+		
モズ	モズ													+	稀に飛来する
	アカモズ オオモズ													(+)	
レンジャク	キレンジャク ヒレンジャク				○										1978・4羽、歴舟川河口近くの 更生地区
カワガラス	カワガラス													+	
ミソサザイ	ミソサザイ													+	
ヒタキ	コマドリ													+	1980・2羽、館山地区の山中 1978・生花苗沼（日本野鳥の会 十勝支部 1980） 1978・生花苗沼（日本野鳥の会 十勝支部 1980）、中島地区の 海岸 数は少ない 1977年死体拾得 1978・歴舟川上流（日本野鳥 の会十勝支部 1980）
	ノゴマリ													+	
	コルリ													+	
	ルリビタキ												○	+	
	ジョウビタキ				○									+	
	ノビタキ													+	
	イソヒヨドリ				○									+	
	トラツグミ													+	
	クロツグミ													+	
	アカハラ													+	
	ツグミ													(+)	
	ヤブサメ													+	
	ウグイス													+	
	エゾセンニュウ													+	
	シマセンニュウ													+	
	マキノセンニュウ													(+)	
	コヨシキリ													+	
メボソムシクイ													(+)?		
エゾムシクイ													+		
センダイムシクイ													+		
キクイタダキ													(+)		
キビタキ													+		
オオルリ													+		
サメビタキ													+		
エゾビタキ													+		
コサメビタキ													+		
エナガ	エナガ													+	
シジュウカラ	ハシブトガラ													+	両種の識別は厳密ではない 1982・7羽大和地区（大笹清氏 の観察）
	コガラ													+	
	ヒガラ													+	
	ヤマガラ シジュウカラ				○									+	
ゴジュウカラ	ゴジュウカラ												+		
キバシリ	キバシリ												(+)	数は少ない	
メジロ	メジロ												(+)		

科	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	繁殖	補
ホオジロ	ホオジロ													+	越冬している
	ホオアカ													+	1978年1羽・開進地区
	コホオアカ	○													数は少ない
	カシラダカ														12月の観察は極めて稀
	ミヤマホオジロ													+	稀に飛来する
	シマアオジ													+	
	アオジュリン													+	
ユキホオジロ													+		
アトリ	アトリ													+	数は少ない
	カワラヒワ														
	マヒワ														
	ベニヒワ														
	ハギマシコ														
	オオマシコ														
	ベニマシコ														
ウヰカソルメ													+		
ハタオリドリ	ニューナイズメ												+		
	スズメ												+		
ムクドリ	コムクドリ													+	
	ムクドリ													+	
カラス	カケス													+	1978・4白色型1羽光地園地区 1980・3白色型1羽拓北地区 (コクマルガラス) 1976・1羽 下芽武地区
	コクマルガラス			○	○									+	
	ハシボソガラス													+	
	ハシブトガラス													+	
	ワタリガラス			○											
44科	212種														

〒089-21 広尾郡大樹町下大樹大樹町農業共済組合 飯嶋良朗

新年懇談会報告

1月20日(土)、13:00~16:30、北海道婦人文化会館で、新年懇談会が開かれました。

今回は、「カワセミ 清流に翔ぶ」などを出版している動物写真家の嶋田 忠さんをゲストにお招きし、井上元則会長のあいさつのおと、嶋田さんから野鳥の写真撮影に対する心構えなど、実際の例などを引き出しながらわかりやすく説明がありました。そのあと、会員の持ち寄ったスライドを嶋田さんのアドバイスを交えながら2時間鑑賞いたしました。岩見沢の山田良浩さんのツミ、チキイカ、マガン、同じく長岡宏幸さんのクマゲラ、あとは札幌の関口健一さんのイカ、キレンジャク、二上 篤さんのスズメ、ノビタビ、野村梧桐さんのトビ、オジドリ、猪口卓さんのカラシラサギ、セイタカシギ、紅林雅文さんのシマアオジ、アカショウビンなど、各人

の力作が次々と写し出され、素晴らしい作品の連続でした。そして、本日のゲストの嶋田さんのスライドが撮影の意図、表現したい点、撮影現場の状況、撮影に至るまでの苦労話などを交えながら写し出され、作品の素晴らしさに何回か声が上がると見事な作品を見させていただきました。

最後に、嶋田さんとの懇談に入り、フィルムのこと、三脚のこと、ブラインドの作り方など写真撮影に必要なことについてお話があり、出席者にはきっと良い勉強になったと思います。

今回は、例年行っております自己紹介をやめ、スライドを中心に行い、ゲストの知名度の高さもあって、例年になく大勢の62名の参加者を得、盛会のうちに終わりました。(編集担当)

マガモの交尾行動

小山 政弘

マガモの交尾を終始観察する機会に二度もめぐまれて、交尾行動類型のアウトラインが少しわかったので紹介する。

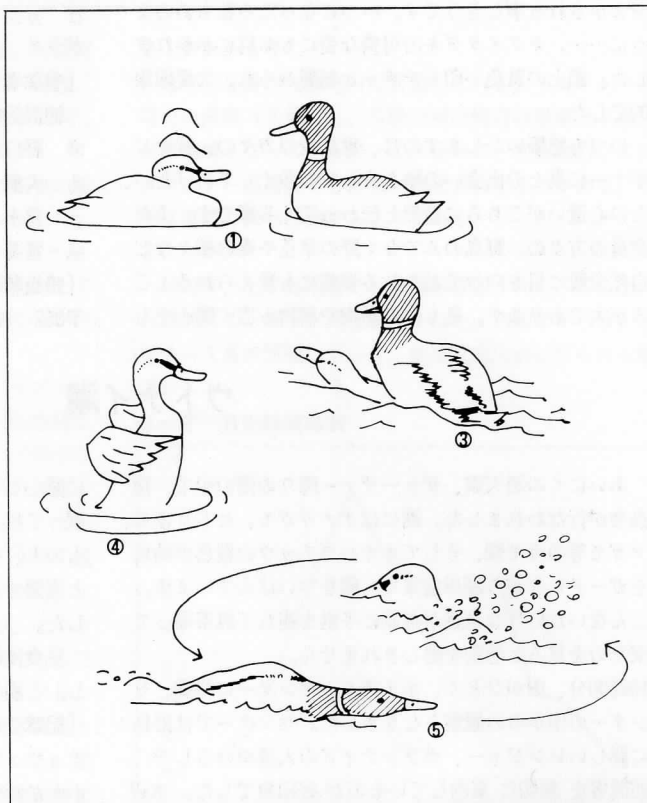
観察されたのは、1981年2月11日苫小牧市郊外にある王子製紙会社所有のダムで二例、1983年4月6日久遠郡大成町のポンウスベツ川のダムで一例である。

交尾行動の類型をひとまず行動順に解説するとおおよそ次のようになる。いずれも水面上での行動である。

- ① 向いあった♂♀が互いに首の上下伸縮を始める。この際の動きは、首を伸ばすより縮めるときの動きが敏速である。
- ② 首の上下伸縮運動のテンポが幾分速やめとなり、♂♀のリズムが合うようになると、♀は♂に背を向けて交尾受け入れ姿勢を示す。
- ③ 首を前方にのぼした♀に背後より♂がマウントし交尾する。
- ④ 交尾が終了し、♂が♀よりおりると♀が背のびの姿勢で羽ばたきをし、次に激しく水浴を始める。
- ⑤ その♀のまわりを♂が首を水面にのぼした姿勢で激しく1~2回水をえがいて泳ぎまぐる。
- ⑥ ♀が④の♀同様羽ばたきをしてから水浴をする。(水浴びをしない場合も一例あった。)

以上が私が観察したマガモの一連の交尾行動である。

なお、②から③に移行する時間は短く、④と⑤とは時間的に連続して行われる傾向が認められた。



それぞれの行動への意味するところは謎であるが、多くの観察例の積み重ねで、あるいは少しずつでもその謎が解けるのかも知れない。

〒043-05久遠郡大成町字都421 北海道立大成高等学校
小山 政弘



野 晩秋うす曇りのこの日、私には8月以来3回目の探鳥会です。この間、出会った鳥たち全てが新鮮で驚きの連続でした。まさに“未知との遭遇”と言う言葉そのものです。こ

幌 58.10.23 堀内 進
の日も新たなる“遭遇”を求めて勇んで参加させて頂きました。

先ず最初に出迎えてくれたのは、ふっくらと愛らしいエナガの群れです。幸先の良いスタートに皆から歓声が上がりました。林道を進むうち、ルリビタキの“ヒッチョロ”という声が何度か遠く近くに聞かれましたが、私に

は姿は最後迄とらえる事ができませんでした。しかし、ヒガラの群れが目の前わずか2〜3mのところと現われ、双眼鏡など無しでじっくりと対面させてもらい、本当に人と鳥との交流という感があり感激させられました。「上！上！」と言う声があがったので見上げると悠々と帆翔している鳥を一瞬とらえる事ができました。オオタカだそうです。ベテランの方々の、素早い識別力には舌をまかされる事しきりです。いつになったら私もあのようになら……。キクイタダキの可憐な姿にもお目にかかれました。頭上の黄色い印もチラッと垣間みられ、大変印象的でした。

いつも感服いたしますのは、世話役の方々の、我々ビギナーに鳥との出会いの場を少しでも多くしてあげたい、との心遣いがこちらに自然と伝わってくる事です。また会員の方々の、野鳥のみでなく野の草花や森の樹々など自然全般に目を向けておられる姿勢にも教えられるところが大きいです。鳥も他の動物や植物も広く関心をもち

って自然との接点を広げていこうという事、とても大事な考え方だと思います。

最後に紅葉鮮やかな秋の一日を、有意義にすごさせて頂きました事を感謝しまして、筆をおきます。

【記録された鳥】 トビ オオタカ ヤマガラ アカゲラ コゲラ ヒヨドリ ミソサザイ ルリビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ハシブトガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ ムクドリ カケス ハシブトガラス カモメSP 以上24種

【参加者】 清水幸・朋子 長岡宏幸・範子 霜村耕介 柳沢信雄・千代子 関口健一 長谷川涼子 五十嵐優幸 野口正男 加藤 勇 屋代育夫 村上 進 福井すえ 犬飼 弘 羽田恭子 二上 篤 品田延一 浪田良三 青木二郎 大坊幸七 堀内 進 岩泉ゆう子 道川弘・富美子 以上26名

【担当幹事】 大坊幸七 長谷川涼子 関口健一
〒062 札幌市豊平区水車町7丁目第2コーポ北海道203

ウトナイ湖

58.11.13. 清水朋子

あいにくの悪天候、ザーザー降りの中、探鳥会が行なわれました。湖にはオナガガモ、ヒドリガモ、マガモ等のカモ類、そしてオオハクチョウの親鳥が幼鳥をガードしながら湖岸迄来て、餌をついばんでいます。こんなたいげな鳥達が長旅に子供を連れて無事帰って来たのを見ると感動を隠しきれません。

10時30分、雨がひどく、ネイチャーセンターに移動、センターの中からの観察となりました。センターでは野鳥に詳しいレンジャー、ボランティアの人達がいらして、訪問客を親切に案内しているのが好印象でした。水辺の鳥の映画を観た後、ウトナイ湖の鳥達の説明に加えて、小魚、貝、昆虫、水性植物類が豊富にあるので、幾種類もの鳥たちが渡来し、湖が凍るまで長旅をいやすとのこと、又時には湖に鮭を見ることがあると、大変楽しいお話を聞かせて頂きとても参考になりました。

幹事さんが「ミコアイサ、カワアイサが見えますよ」と声を掛けて下さり、観察するのですが、雨のため確認が難しく、やっと見つけることができました。

天候の良し悪しで鳥の形、大きさ、色彩、そして湖面の色、輝きがこんなに変化するものかと、自然界の明暗

に感心しながら、鳥達は、と見ると雨の中我れ閑せずと眠って居るもの、忙しげに飛んでいるもの、採餌をするものと、それぞれの姿に精一杯一生懸命生きているのだと実感すると共に又、鳥たちに教えられた一日となりました。

昼食後解散となり、降りしきる雨の中「雨の日も又楽し」と満足しながらウトナイ湖を後にしました。

【記録された鳥】 アオサギ オオハクチョウ コハクチョウ マガモ コガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ホシハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ チュウヒ ウミネコ アカゲラ ハクセキレイ ツグミ シジュウカラ スズメ ハシブトガラス (コブハクチョウ) 以上22種

【参加者】 屋代育夫 泉屋太郎・宣志・恵津子 天童雅俊 紅林雅文・幸子 倉橋 励 青木二郎 福井スエ 堀内 進 岩泉ゆう子 野々村菊 浪田良三・典子 清水 幸・朋子 早瀬広司 道川 弘・富美子 以上20名

【担当幹事】 早瀬広司 紅林雅文 道川富美子
〒062 札幌市豊平区西岡2条1丁目8-18

小樽海岸

58.12.11 後藤ひろみ

バードウォッチングを始めて2回目の冬を迎えました。まだまだ分らないことばかりですが、情熱だけは人一倍だと思います。「アッ」と言う間に過ぎた、この一年間。

スズメとカラスとあとは知らない鳥、という私だったが、一種類二種類と、新しい野鳥の名前を覚え、すがたを観て声を聞いて、たくさんの感動と満足感にひたらせ

いただきました。

私のようなビギナーにとって、観察には最高のシーズンと言われる寒い冬がやってきました。

今回は、バスで祝津から小樽港まで廻るコースです。はじめの目的地祝津では、ウミスズメがたくさん出ました。波間にプカプカ浮かんでいました。一列に並んだり、向いあったり、一斉にもぐったり、とてもかわいい野鳥ですね。大感激!

次に望遠鏡に入ってきたのが、ヒメウ、ウミウです。ウの飛んでいるすがたは、とてもおもしろいですね。岩の上にとまって、羽をひろげて日光浴しているかっこうも、おもしろいし、ヒメウもウミウもよく見る野鳥ですが、大好きです。

小樽港に着くころには、あいにく雨がふってきて、午後からの探鳥会は、中止になりました。残念でしたが、解散後、ホオジロガモの80羽ぐらいの群を見に行きました。ホオジロガモはほんとうに間近かで観察できました。冬の港にたくさんの野鳥がいるなんて、以前は、考えもしなかったことです。今年1年間、身近に自然を感じる事ができました。これからも、今残っている自然を大切

にしていかなければいけないと考えています。そして、これからも自然から多くの事を学んでいきたいと思っています。

【記録された鳥】 ウミウ ヒメウ、シノリガモ、ホオジロガモ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、ウミスズメ、ハクセキレイ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、アビSP 以上13種

【参加者】 中野高明 松山佳則 富樫敏雄 斉藤正彦 霜中愛子 鍋島由次郎 高橋秀実 大和民承 志田範三 後藤ひろみ 新井祐子 清田吉晴 松田清美 吉田五市 亀尾紋十郎 渡辺俊夫 戸津高保・以知子 武沢佐知子 泉屋宣志・恵津子 道川 弘・富美子 松井由紀子 武沢和義 柳沢信雄・千代子 早瀬広司 浪田良三 野々村 菊 園部恭一 五十嵐優幸 山田道子 羽田恭子 岩泉ゆう子 白沢昌彦・光明 天童雅俊 太田タミ子 大坊幸七 西川喜久世 渡辺紀久雄 青木命子 青野久子 堀内 進 長谷川涼子 以上46名

【担当幹事】 亀尾紋十郎、渡辺俊夫、中野高明

〒 047小樽市最上1-12-1



【野幌森林公園】 昭和59年5月13日(日)午前9時30分大沢駐車場入口、または百年記念塔午前8時30分集合。

【植苗、ウトナイ湖】 昭和59年6月17日(日)午前9時10分国鉄千歳線植苗駅集合。

【東米里】 昭和59年6月24日(日)午前9時東米里小学校前バス停留所集合。(地下鉄菊水駅から札幌市営バス米里線利用)

【東区・福移】 昭和59年7月8日(日)午前8時30分札幌市営バス札苗線福移入口停留所集合。

＜野幌森林公園を歩きましょう＞

昭和59年5月27日(日)、6月3日(日)、7月15日(日)、午前9時30分大沢駐車場入口、または百年記念塔午前8時30分集合です。

いずれの探鳥会も、ひどい暴風雨でないかぎり行います。昼食、筆記用具、観察用具をご用意下さい。

探鳥会のお問い合わせは、早瀬011-611-0949まで。

◆一泊早朝探鳥会の案内◆

千歳川周辺の一泊早朝探鳥会を行います。ヤマセミ、アカショウビン、カワセミなど30種くらい観察出来るでしょう。多数の会員の参加をお待ちしています。

記

1. 日時 昭和59年5月19日(土) 19:00より

20日(日) 8:30まで

2. 場所 サンポートガーデン 千歳市蘭越町5番地 電話 01232-3-3741

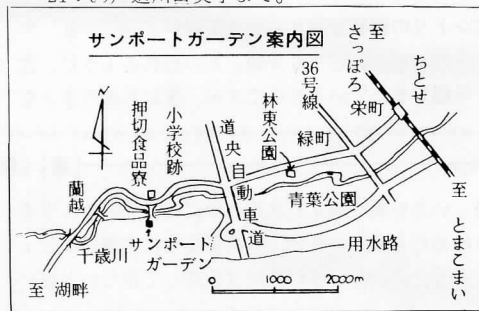
3. 会費 1700円 夕食付(ジンギス汗鍋)朝食は各自持参、尚、宿泊設備がないため寝袋、毛布など各自用意ください。

※ 自家用車の方は直接サンポートガーデン集合(駐車場あり)

列車、バスご利用の方は千歳駅待合室18時30分集合駅から現地まではタクシーを利用します。

20日(日)午前4時から8時迄探鳥、8時30分解散予定

※ 参加申込、4月と5月の野幌森林公園探鳥会の折受付ます。尚、電話の場合は5月10日から12日までお願いします。電話643-5369(夜間19:00から21:00) 道川富美子まで。





◆**傷害保険加入について**

探鳥会のより一層の安全をはかるため、傷害保険に加入しました。この保険は、探鳥会の集合時から解散時まで会員・非会員を問わず、参加者全員が対象となります。ケガ

をして通院された場合は2,000円、入院された場合は2,500円(各々1日当り)、万が一の死亡事故の場合は300万円の補償がなされます。ただし、風邪や食中毒、持病を持っている方でそれが悪化した場合等は補償の対象となりません。また、「野幌森林公園を歩きましょう」は対象となっております。探鳥会に参加のみなさんは安全に十分注意を払われますように、あわせてお願いいたします。(総務担当)

◆**定例幹事会報告**

58年12月7日(水)、18時30分～21時、札幌市民会館会議室、出席幹事11名

[審議内容]

1. 新年懇談会の内容について検討した。
2. 会員名簿の発行について、早急に見積りをとるなどして検討することとした。
3. 探鳥会幹事より59年度の計画が提示された。懸案の1泊探鳥会や定例探鳥会の回数の増加、従来の探鳥地以外での探鳥会の実施等を綿密に検討し、7月分までについての案を了承しました。

59年1月11日(水)、19時～20時30分 札幌市民会館会議室、出席幹事9名

[審議内容]

- 1 昭和59年度の総会を4月21日(土)午後2時から開催することとした。
- 2 野鳥写真展をバードウィークに合わせて、三菱信託銀行で開催することとした。
- 3 藤の沢探鳥会の実施方法について協議した。
- 4 会員名簿の作成、郵送には10万円程度を要するため予算等を見極めながらさらに検討することとした。

◆**オシドリの観察記録をお送り下さい!**

オシドリは「おしどり夫婦」といわれるように、古くから親しまれているカモですが、数はあまり多くな

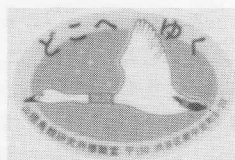
く、分布などもはっきりしていません。オシドリの分布は日本以外ではウスリー地方、中国東北地方など極東のごく一部に限られています。現在、北海道におけるオシドリの分布を調べていますが、会員の皆さんでオシドリの観察記録をおもちでしたら、お送り下さい。

記載事項 場所(できるだけ詳しく)、年月日、できれば数、雌雄の別。

送り先: 〒080帯広市稲田町 帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 藤巻裕蔵

◆**標識白鳥の調査に協力しましょう!**

山階鳥類研究所では、白鳥の標識調査を行っております。首あるいは足にグリーン色の標識をつけた白鳥を観察された方は、観察日時、場所、首環のナンバー等を次のところまで連絡しましょう。



連絡先: 〒150 東京都渋谷区南平台町8-20、山階鳥類研究所・標識研究室、電話03(463)0410

◆**野鳥写真展について**

札幌市駅前の三菱信託銀行(北4西4)ロビーで、5月10日～17日まで開催の予定です。

お手持ちの写真を次の要領で5月1日までに事務局(本会)までお寄せ下さいです。

テーマ: 山野、水辺、庭などの野鳥の写真

サイズ: 四ツ切～半切で、カラー、モノクロいずれも可能。

展示写真はパネル張りにしてお返しする予定です。

◆**昭和59年度の総会について**

59年度の総会を次のとおりに開催しますので会員の皆様の多数の出席をお願いします。

とき 4月21日(土)午後2時

場所 札幌市婦人文化センター

(中央区大通西19丁目) 電話(621)5177

議題 昭和58年度事業報告

昭和58年度会計報告

昭和59年度事業計画

昭和59年度収支予算

役員改選 その他

— [編] [集] [後] [記] —

厳しい冬を乗り越えた鳥達の中には、元気よくさえずり始めたものもいます。さあ探鳥会に出掛けましょう。会報会員の方も年に数回は参加して欲しいと思

います。特に、今回は一泊探鳥会も企画しました。鳥の声は、日中、夜中、早朝と一日中聞こえて、とても楽しいものです。申込みをお待ちしています。(紅林)

〔北海道野鳥愛護会〕年会費1,500円(会計年度4月より)郵便振替 小樽 1-18287

〒060 札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル5階 北海道自然保護協会気付 ☎(011)251-5465